

はじめにー新学期開始ー

新学期が始まりました。新しいルームメイト、新しいクラスメイトとの出会いがあり、充実した一か月でした。9月はとてもボリューミーでとても長く感じました。まだまだ暑さが厳しく、湿度も高く、秋というより夏です。しかし、夜は涼しく川べりでおしゃべりするのが気持ちいです。夜が遅くなりすぎると、ゴキブリが大量発生するので、夜道を歩く際には最新の注意が必要です。

残り3か月しかないことに焦りを感じています。しかし卒論、インターンシップ、授業、中国語の勉強とやることがたくさんあり、充実した後半になりそうです。何事も楽しむ、そんな精神で残りの留学生生活を満足いくものにしようと思います。



中秋節では月餅を食べる。これは授業中に先生から配られた月餅

台湾生活

○ルームメイト

新しく来たルームメイトは3人とも中国大陸からの留学生でした。なぜ、大陸から台湾に留学？と思いました。中国大陸の人は台湾に簡単に旅行に来ることができないため、留学で来てみたとのことでした。寮の同じフロアにも中国大陸からの留学生が多く、その多さに驚いています。

中国大陸の言葉は台湾人の話し方と少し異なり、早口で話すので、違いにあたふたしています。また、寝る時間も早く 11:30 前には消灯してしまいます。私は普段 1:00 頃まで起きていたので、習慣の違いに驚きました。夜中まで騒ぐよりはいいかと思い、私も 12:00 頃に寝るようになりました。

部屋に帰っても中国語で話すことができる環境は最高だと思います。理解できない単語が多いのですがどんどん話しかけてみようと思います。



○授業

秋学期のスタートです。

読み書きの授業、リスニングの授業、中国の飲食文化についての授業をとりました。Aクラス、Bクラス、Cクラスに分かれており、Aクラスが一番レベルの高いクラスになっています。前学期はCクラスでしたが、今学期は一つ上のBクラスを履修しています。全て1年生の前期の授業なので、簡単ということもありますが、一つ上のクラスに上がったことはとても嬉しいです。他の学科の授業を履修しようと思い一回見に行ってみましたが、中国語が聞き取れなかったため、諦めました。また、台湾大学に台湾人の友達ができたと、台湾大学大学院の日本語文学科の授業を聴講しています。大半は日本語で行う授業のため理解できますが、所々中国語になるので、理解できなくなる時もあります。台湾大学ということもあり、やはり学生のレベルが高いことに驚かされます。流ちょうに日本語で意見を述べているところを見ると、もっと中国語を勉強しようというモチベーションアップにも繋がります。また、前学期は大学付属の語学学校にも通っていましたが、今学期は夏休みに学習した範囲以上のクラスがないということで、語学学校の授業を履修することをやめました。

○金瓜石

ここは、日本統治時代から金と銅が採掘されていた鉱山でした。国民党政府が台湾に来てからは、政府機関や国営企業が採掘を行っていましたが、1987年に操業が終了しました。2004年に新北市金瓜石黄金博物館として開館し、当時の採掘の様子や炭鉱で働いていた人々の生活などを展示しています。ここは、台北市内からバス一本90分ほどで着きます。観光地として大人気の九分からもバスで10分と交通の便はとてもいいです。しかし、ガイドマップに載っていないからなのか、観光客は台湾人と韓国人だけでした。私もここに行くまでは知りませんでした。日本統治時代に台湾で日本がどのようなことをしていたか知ることができる貴重な場所だと思います。日本統治時代のできごとに興味を持てば持つほど、日本人向けの観光は、日本統治時代のことから目を背けた場所が多いと感じました。日本人観光客に負の要素を見せないようにしているとようにも見えます。

特に驚いたのは、山を登っていくと神社があることです。日本統治時代に日本人が建てたものです。山道を登っていく途中に鳥居や灯籠などがあり、日本にいるような不思議な気分になります。台湾各地に日本の神社があることは聞いたことがありましたが、ほとんどが壊されてしまい見ることはできませんでした。貴重な物を見ることができました。

台北市内からのアクセスも良く、最近は観光地化に力を入れており、炭鉱に興味がなくとも楽しめる施設になっています。ぜひ訪れてみてください。



神社の跡地

現在は、柱と灯籠が残っている。整備されており、景色も楽しめる

○台湾国家婦女館

ここは、政府の主導で設立された、政府と民間の女性団体、海外の女性団体との連絡や交流を促進する重要な場所です。展示エリアもあり、一般の人向けにジェンダー平等や女性に関する問題などの特別展も行われています。卒論に關係する施設なので、私も一度展示を見てみたいと思い足を運びました。展示を見るだけでなく、台湾国立婦女館の職員の方ともお話できました。私のつたない中国語を理解してくださり、どんな展示なのかということも丁寧にお話してくれました。台湾でどのような女性問題があり、「ジェンダー主流化」どのようになされているのか知ることができます。さすがアジアで一番女性の地位が高いと言われる国なだけあって、力の入れ方が日本と異なると感じました。



卒論 NOTE

中間報告会が近いということで焦っています。

少数民族のことを調べるには限界があったため、少数民族の部分は諦めて、台湾の女性運動について研究することにしました。

今回は、台湾の女性運動についてまとめてみたいと思います。

「ジェンダー・フレンドリーな台湾」の特徴

- ① 2016年にアジア初の女性大統領、蔡英文が選出
- ② 女性議員の割合がアジア諸国の中で最も高い割合
立法委員（日本の国会議員）の41.6%、地方議員の32.1%が女性議員（2020年）
- ③ 2019年、アジア初の同性婚が法制化

台湾の女性運動の歴史

「民主的な台湾」の歴史は長くない！

1949～1987年の戒厳令により民主化活動、女性運動は厳しく取り締まられた

80年代後半～90年代

女性運動団体が次々できる

1995年 世界女性会議 in 北京

台湾もジェンダー主流化を進めるように政府が動きだした

→多くのジェンダー平等関連法律の誕生 児童および少年性取引防止条例、DV防止法

1997年 台北市公娼廃止論争によりフェミニストたちの立場が分裂

「婦権派」（主流派）→体制内改革を主張。公娼廃止。

「性権派」（性解放派）→性やセクシュアリティに注目。公娼は労働権。

ジェンダー平等教育

「性教育」「恋愛教育（情感教育）」「同性愛教育」をカリキュラムに含む

1997年に教育部に「両性平等教育委員会」が設置され、ジェンダー平等教育が進められてきた

2004年 「ジェンダー平等教育法」が成立

「両性平等教育委員会」→「ジェンダー平等教育委員会」

ジェンダー平等教育に多様なセクシュアリティを正式に包括した

<参考文献>

熱田敬子、金美珍、梁・永山聡子、張瑋容、曹曉彤、2022年、『ハッシュタグだけじゃ始まらない 東アジアのフェミニズム・ムーブメント』大月書店